

一粒の麦 場面十三

晩年の吟子



(ヨハネ伝第十五章十三節) 荻野吟子が愛称した聖句。
『人その友の為に己の命をすつる。之より大いなる愛はなし』

写真と解説はイメージです。史実と異なる場合もあります。

吟子は1908(明治41)年に再び東京に戻りました。本所区新小梅町(現墨田区)に医院を経営し、姉とも養女トミと暮らしました。1913(大正2)年、助膜炎を発病し同年5月脳動脈硬化により卒倒。そして6月23日、吟子は帰らぬ人となりました。葬儀は本郷教会にて執り行われ、雑司ヶ谷の地に眠っています。享年63。